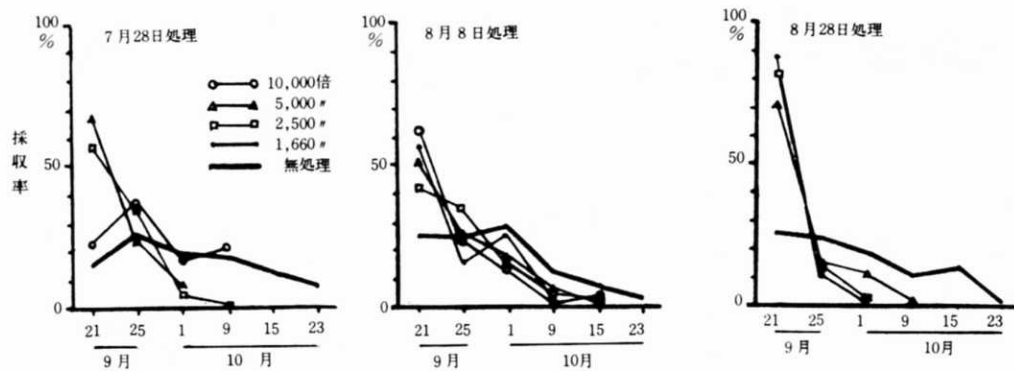






第1図 果実成熟期に及ぼす効果 (長十郎)

第1表 果実の肥大および成熟期に及ぼす効果 (八雲)

| 処理日   | 濃 度    | 処理時果径   | 採取時果径   | 果 重     | 結 果 数 | 採 収 率 | 平均果色 |
|-------|--------|---------|---------|---------|-------|-------|------|
| 7月28日 | 2,500倍 | 52.8 mm | 133.1 % | 186.1 g | 100   | 100 % | 3.5  |
|       | 10,000 | 54.3    | 133.1   | 204.0   | 64    | 68.8  | 3.0  |
|       | cont   | 53.5    | 134.2   | 196.6   | 53    | 5.7   | 1.4  |
|       |        |         |         |         |       |       |      |
| 8月9日  | 2,500  | 61.3    | 110.6   | 161.2   | 40    | 80.0  | 3.4  |
|       | 5,000  | 60.0    | 112.7   | 162.6   | 55    | 81.8  | 2.9  |
|       | 10,000 | 60.2    | 112.0   | 160.7   | 55    | 60.0  | 2.5  |
|       | cont   | 61.4    | 112.7   | 181.4   | 21    | 9.5   | 1.6  |

注. 1) 採取時果径は処理時に対する肥大率

2) 果色指数 1:青色, 2:やや青色, 3:黄色, 4:非常に黄色

3) 8月22日調査

第2表 果実の肥大および成熟期に及ぼす効果 (幸水)

| 処理日   | 濃 度    | 処理時果径   | 採取時果径   | 果 重     | 果実の裂果* |   |   |         | 結果数 | 採 収 率 | 平均果色 |
|-------|--------|---------|---------|---------|--------|---|---|---------|-----|-------|------|
|       |        |         |         |         | 大      | 中 | 小 | 健       |     |       |      |
| 7月28日 | 2,500倍 | 50.8 mm | 164.1 % | 323.6 g | 9      | 1 | 0 | 9 (19)  | 10  | 100 % | 1.3  |
|       | 5,000  | 51.3    | 161.3   | 302.9   | 1      | 1 | 0 | 18 (20) | 59  | 47.5  | 1.7  |
|       | 10,000 | —       | —       | 331.7   | 0      | 0 | 0 | 20 (20) | 30  | 60.0  | 1.6  |
|       | cont   | 52.3    | 159.7   | 316.9   | 0      | 0 | 0 | 20 (20) | 72  | 13.9  | 3.1  |
| 8月8日  | 1,660  | 63.5    | 123.4   | 226.3   | 2      |   |   | 42 (44) | 44  | 100   | 1.0  |
|       | 2,500  | 60.8    | 134.7   | 323.3   | 5      |   |   | 14 (19) | 19  | 94.7  | 1.6  |
|       | 5,000  | 63.7    | 128.5   | 295.8   | 0      |   |   | 76 (76) | 76  | 31.6  | 1.7  |
|       | 10,000 | 62.3    | 132.6   | 321.1   | 1      |   |   | 43 (44) | 44  | 38.6  | 2.8  |
|       | cont   | 63.4    | 141.8   | 372.4   | 0      |   |   | 9 (9)   | 9   | 0     | 3.8  |

注. 1) \*裂果調査 7月28日処理区は8月9日, 8月8日処理区は9月4日

2) ( )内は調査数

3) 採取時果径は処理時に対する肥大率

4) 果色指数 1:黄色, 2:黄々緑色, 3:黄緑色, 4:緑色

5) 9月4日調査

果重に対するエスレルの影響はいずれの品種も認められなかったが、果実硬度についてはいずれの品種とも無処理に比較して明らかに軟らかく、この傾向は処理時期、濃度に関係がなかった。果色の変化は処理後10日内外で外見的に明らかな差がみられたが、屈折糖度計示度による糖度を比較すると長十郎では9月22日調査時0.4～1.0度高かったが、八雲(8月22日調査)、幸水(8月28日調査)ではほとんど差が認められなかった。

葉の薬害はみられなかったが、長十郎、幸水は落葉期がやや早まる傾向がみられ、八雲その他の品種ではみられなかった。果実については幸水、新水は処理時期および濃度によって裂果を起こした。

#### 4 ま と め

エスレルを長十郎では50～60mm、幸水、八雲で

51～63mm当時に枝葉、果実に散布した結果、果色の変化が顕著にみられ、成熟期が促進された。しかしながら果色の変化の割合に糖度の差はみられなかった。本年度の結果から考察してエスレルの散布時期は長十郎では8月28日、八雲、幸水は8月初旬が適当と思われる、処理濃度は5,000～10,000倍が適当で、これ以上の高濃度を用いる必要はないと思われた。

処理果の日持に対する影響はみられなかった。また、供試品種中パートレットは樹上における果色の変化は外見的にみられなかったが(追熟中の変化については不明)他の品種ではいずれも処理の効果が顕著に現われ実用性が認められた。

## モモの熟期促進におよぼすB-ナインの影響について

### 第1報 散布時期と散布濃度について

井上 重雄・橋川 郁夫\*

(福島県園試)

#### 1 ま え が き

モモの熟期促進の必要性は2つに大別できる。その1つは出荷時期を早めることによって販売価格を有利にすることにある。なかでも福島県から出荷される大久保(モモ栽培面積3,510ha中62%と圧倒的に多い)は、例年8月17, 8日ころから8月23, 4日ころまで出荷するモモは安値に取引されている実情にあり、モモ栽培上大きな問題となっている。これを最近モモの『20日なやみ』と呼んでいる。そこで20日なやみを解消するためには、熟期の促進がきわめて重要である。

その2つには収穫労力の集中緩和にある。すなわち、モモは収穫期間が短い上に収穫後直ちに出荷しなければならない果実であるため、短期間に多くの労力を必要とする。したがって同一品種のある特定面積において熟期を早めることができれば、収穫のピークは大幅に回避でき、共選場の運営においてもピークを緩和でき、大きなプラスとなる。

このような観点から筆者らは、B-ナイン(N-ジメチルアミノ-スクシンアミド酸93%)散布によるモモの熟期促進について検討した。

その結果、3～5日程度の熟期促進効果が認められ

た。そこで第1報として大久保に対する散布時期、濃度について報告する。

#### 2 試 験 方 法

1967:1966にわずかながら砂子早生を供試し、オウトウの熟期促進のためのB-ナイン散布時期と同じく、満開2週間後に500, 1,000, 2,000ppmの濃度について試験したが、熟期促進効果は認められなかった。そこで1967年には次のような設計で試験を行った。

供試品種は大久保5年生9樹を使用し、次の7区を大枝単位に設ける反覆とした。

|           |        |      |
|-----------|--------|------|
| 1,000 ppm | 満開16日後 | 1回散布 |
| 2,000 "   | " "    | " "  |
| 1,000 "   | " 45日後 | " "  |
| 2,000 "   | " "    | " "  |
| 1,000 "   | " 76日後 | " "  |
| 2,000 "   | " "    | " "  |
| 無 散 布     |        |      |

満開日: 4月26日

散布は展着剤(ネオエステリン5,000倍)を加用し、肩掛け噴霧機を用い十分量散布した。

収穫は生食用として出荷できる果実、すなわち地色

\* 現福島農業改良普及所